



# 決算説明資料

---

第71期：2026年3月期 第3四半期

---

株式会社平賀  
東証STD 7863

2026年2月13日






## この国の販促を、変革します。

お客さまとともに次のステージへ進むために、  
2023年、当社はミッションとビジョンを再定義しました。

現在、課題が山積する小売流通業界は、  
かつてないほどチャレンジングな時代に突入しています。  
そんな中、当社はお客さまとの固いパートナーシップを礎に、  
これまでに培ってきた知見とコンサル能力を発揮し、  
印刷・販促業界の中でもオンリーワンの存在として  
小売業界の活性化に貢献してゆく所存です。

そして2030年、小売の課題解決が日本一得意な会社へ。  
私たちは、販促を変革し続けます。

# アジェンダ

 1 2026年3月期 第3四半期 決算概要 ..... P4

 2 2026年3月期 第3四半期 事業概況 ..... P12

 3 Appendix ..... P17

本資料に記載されたすべての意見や予測、見通しなどは資料作成時点における入手可能な情報に基づいた弊社の判断であり、様々な要因の変化により、実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

## ■ 2026年3月期 第3四半期（4月～12月）業績ハイライト①

売上高

7,865 百万円 前年同期比 3.1% 増

営業利益

232 百万円 前年同期比 38.5% 減

### ・ 売上高

新規大型案件の本格稼働が寄与し、増収を確保  
価格見直しや新規開拓が進み、顧客構成の分散が着実に進展

詳細P6

### ・ 営業利益

上流提案などの高粗利案件の増加および価格の見直しが進捗  
新規参入コストの収束により、第3四半期（10月～12月）では増益確保

詳細P7～8

### ・ 生産体制

組織横断での連携強化で内製化を推進。外注費削減に進展

詳細P14

## 2026年3月期 第3四半期（4月～12月）業績ハイライト②

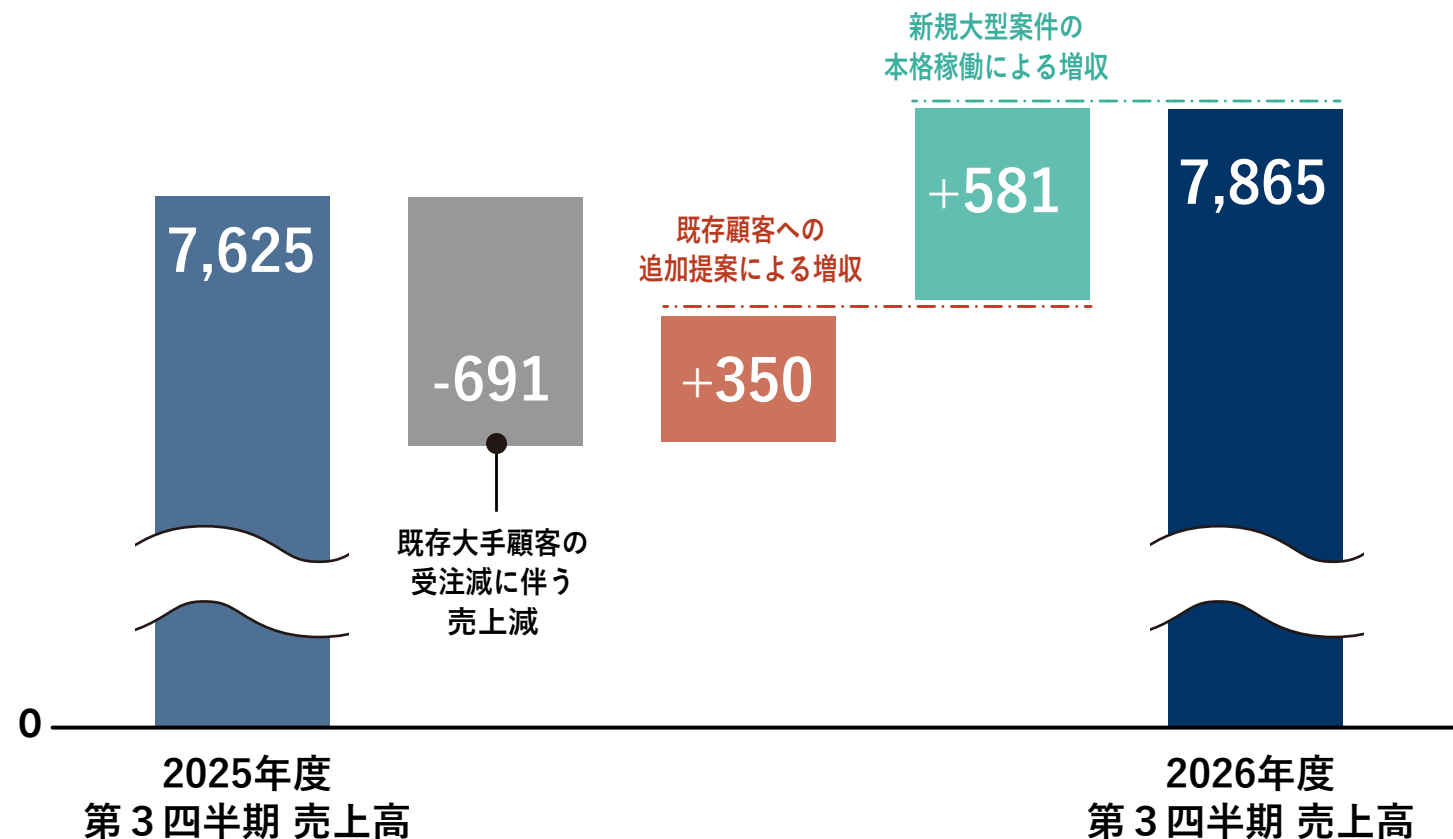
| (百万円) | 2025年3月期<br>第3四半期実績 | 2026年3月期<br>第3四半期実績 | 前年同期比 | 増減率    | 進捗率   |
|-------|---------------------|---------------------|-------|--------|-------|
| 売上高   | 7,625               | 7,865               | + 239 | 3.1%   | 75.6% |
| 営業利益  | 378                 | 232                 | ▲145  | ▲38.5% | 58.1% |
| 経常利益  | 435                 | 293                 | ▲142  | ▲32.7% | 62.4% |
| 純利益   | 296                 | 193                 | ▲103  | ▲34.8% | 58.6% |

## 2026年3月期 第3四半期（4月～12月）売上高の増減要因

新規大型案件の本格稼働が売上成長を牽引。

一部既存顧客の受注減はあったものの、顧客分散が進み増収を確保。

（単位：百万円）



### セグメント別 売上前年比較例

チラシ印刷  
前年比 **100%**

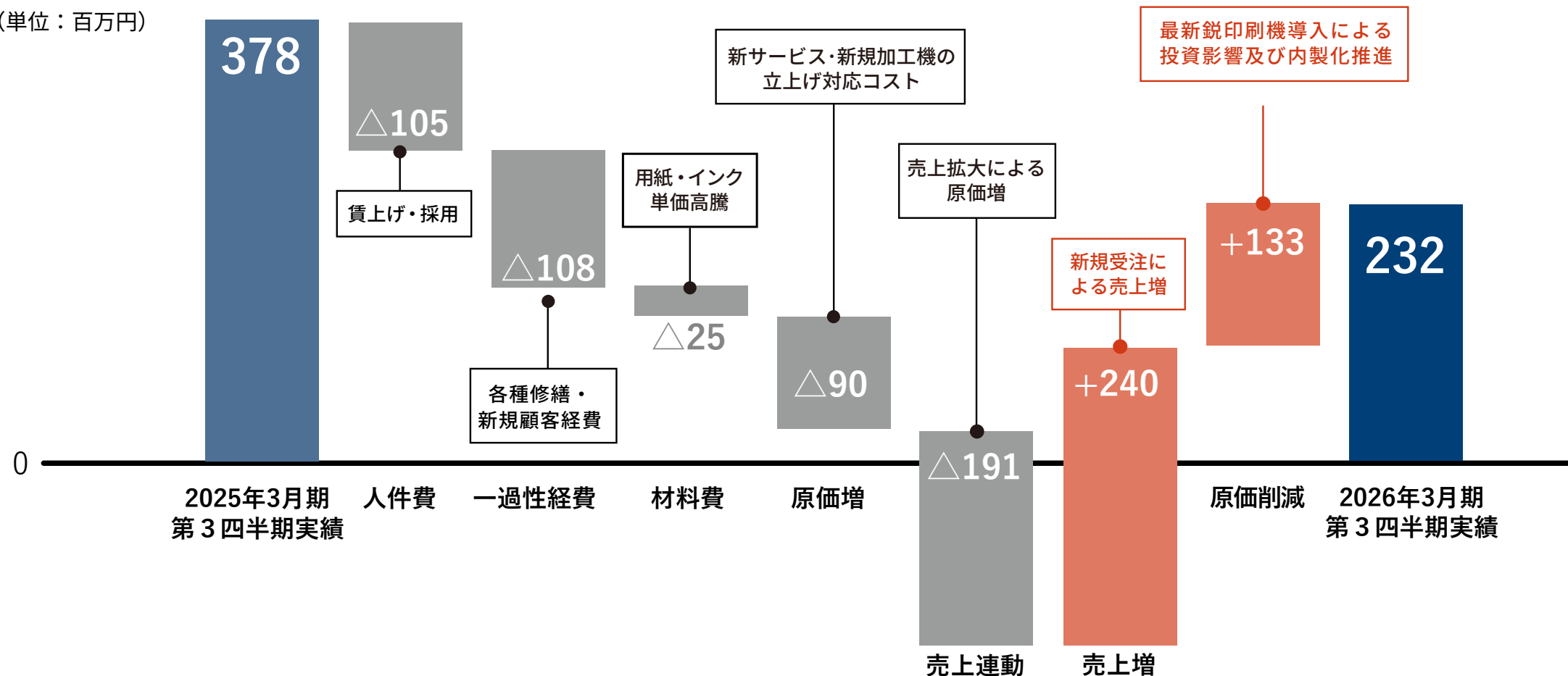
印刷販促物  
前年比 **110%**

POP・シール・DM など好調

## 2026年3月期 第3四半期（4月～12月）営業利益の増減分析

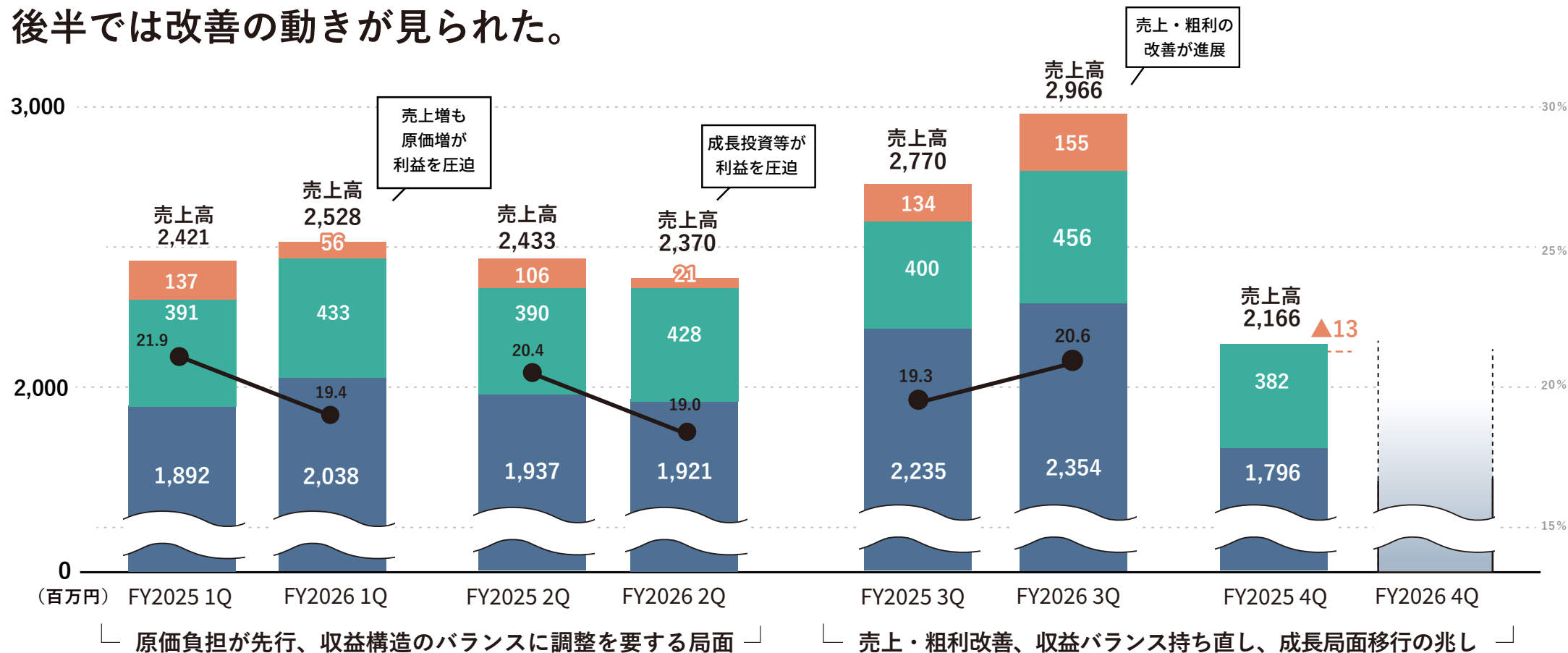
第3四半期比では増益となるも、累計では減益。サービス稼働に伴うコスト増加と、成長を見据えた賃上げ、採用、福利厚生強化など人的投資の継続。

（単位：百万円）



## ■ 四半期比較でみる収益構造

前半は収益構造のバランスに調整を要する局面となったものの、後半では改善の動きが見られた。



■ 営業利益 ■ 販管費 ■ 原価 ● 粗利率



## 2026年3月期 第3四半期（4月～12月）通期業績予想進捗

提案力強化と効率化で利益率改善を目指す。

通期業績予測は据え置き。

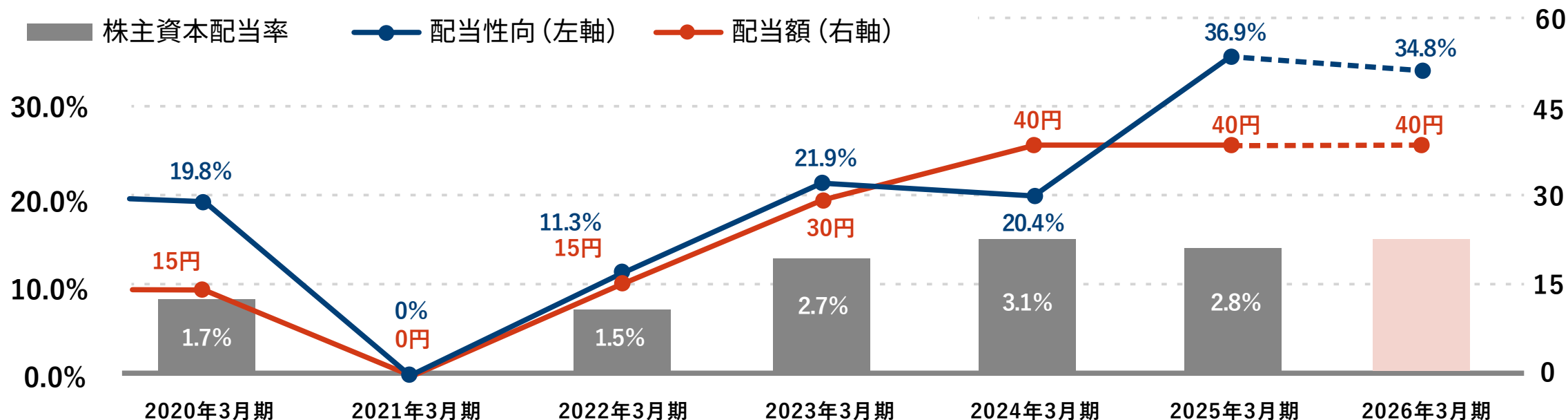
|       | 通期（百万円） |        |      |
|-------|---------|--------|------|
|       | 前期実績    | 業績予想   | 伸長率  |
| 売上高   | 9,792   | 10,400 | 6.2% |
| 営業利益  | 365     | 400    | 9.5% |
| 経常利益  | 437     | 470    | 7.3% |
| 当期純利益 | 311     | 330    | 5.8% |

| 参考（百万円） |       |
|---------|-------|
| 3Q 実績   | 進捗率   |
| 7,865   | 75.6% |
| 232     | 58.1% |
| 293     | 62.4% |
| 193     | 58.6% |

## 2026年3月期 第3四半期 配当予測

2026年3月期の配当は、当初予定通り1株当たり40円を維持（予定）

当社は、企業体質を強化し、持続可能な成長を確保するため、内部留保を充実させつつ、安定的かつ適切な配当の継続を基本方針として掲げています。特に中期経営計画SPX2027では、2027年3月期における配当性向を30%以上とする目標を設定しています。株主還元の強化と企業価値向上を両立させるため、当期配当は前期と同額の1株当たり40円を計画しています。

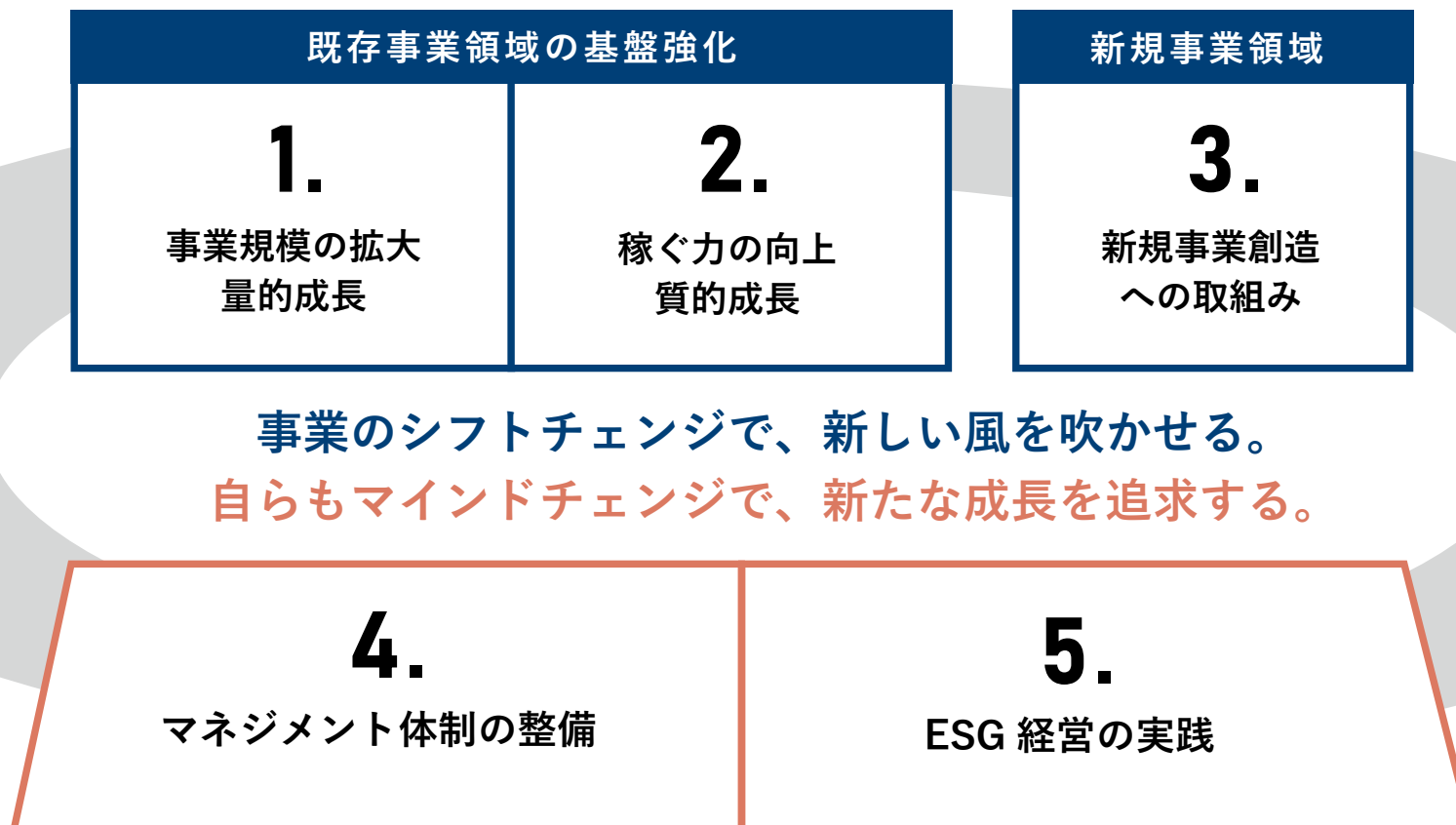


# アジェンダ

- 1 2026年3月期 第3四半期 決算概要 ..... P4
- 2 2026年3月期 第3四半期 事業概況 ..... P12
- 3 Appendix ..... P17

## SPX2027（2025年～27年3月期）事業戦略

Vision2030「小売の課題解決が日本一得意な会社へ」の実現にむけて、以下の事業戦略に基づく諸施策に取り組んでいく。



## 2026年3月期 第3四半期（4月～12月）当社を取巻く事業環境

### 主要顧客である小売業界

---

- ・ 物価上昇の影響で売上は堅調な一方、消費者の節約志向が継続
- ・ 低価格対応と付加価値づくり（PB・サービス）の両立が重要に
- ・ 原材料費・物流費の上昇、人手不足が経営負荷を増加

⇒ 販促の効率化・省力化と顧客満足度向上が同時に求められている

### 事業領域である販促及び印刷業界

---

- ・ 消費行動の変化により、一人ひとりに寄り添う販促へのシフトが進行
- ・ デジタル活用や、現場に無理のない顧客接点価値向上のニーズが拡大
- ・ 紙媒体需要の減少や原材料高騰により、事業構造の見直しが進展

⇒ DX・生成AIの活用による効率化と価値創出の重要性が高まっている

## 2026年3月期 第3四半期（4月～12月）トピックス Topics①

埼玉工場

生産性改善

内製化促進

### 12月の印刷枚数が過去最高を達成

#### ～当期は外注費を約73百万円削減～

一年で最も繁忙となる12月に、埼玉工場の稼働開始以来、月間チラシ印刷枚数として過去最高を更新しました。本成果は、稼働時間の拡大に加え、業務体制の整備とシフト調整による実働時間の改善、ならびに加工設備への投資や生産管理のフルデジタル化が寄与しています。

これらの取り組みにより生産内製化が進展し、前年同時期から約73百万円の外注費削減を実現しました。今後も生産性向上に向けた総合的な改善を継続してまいります。

社内印刷枚数

前年比

102.3%

内製化比率

前年比

2.5%増



埼玉工場 印刷部門 | 最新鋭オフ輪印刷機

## 2026年3月期 第3四半期（4月～12月）トピックス Topics②

TEAM EXPO 2025

ちょいサス。

食品ロス

### 食品ロス削減『ちょいサス。』 環境省モデル事業として 店頭キャンペーンを4企業連携で展開

当社が、大阪・関西万博「TEAM EXPO 2025」プログラムの共創チャレンジとして展開するSDGsプロジェクト『ちょいサス。』を発展させ、環境省「令和7年度食品の消費行動に伴う食品ロス削減対策導入モデル事業」に採択された消費者キャンペーンを、関西を中心に、多様な小売企業4社と連携し展開しました。今回のキャンペーンでは、4企業がそれぞれの強みを活かし、地域に根ざした食品ロス削減活動を展開しました。企業間の協働によるこの新しい取り組みを通じて、地域とともに持続可能な未来づくりを進めています。



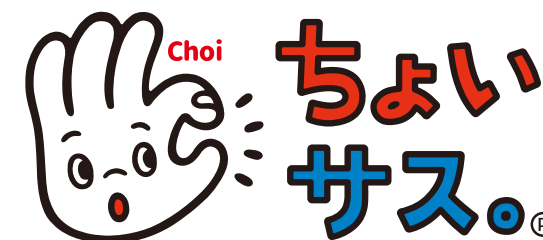
大阪府内に約120店舗を展開する地域密着型のドラッグストア・調剤薬局チェーンです。地域の健康・医療を支えています。



日本もったいない食品センター（本部：大阪府摂津市）が運営する、食品ロス削減型の店舗です。全国に約30店舗を展開しています。

関西を中心に多様な  
小売企業と連携し  
キャンペーンを展開

ちょっとだけ、サステナブラへん？



大阪市内に8店舗を展開する、生鮮食品を中心に「安心」と「安全」を食卓へ届けることを理念にした地域密着型のスーパーマーケットです。



兵庫県を中心に113店舗を展開し、店舗・宅配・福祉など幅広い事業を運営。さまざまな取り組みを通じて、食品ロス削減に貢献しています。

# アジェンダ

- 1 2026年3月期 第3四半期 決算概要 ..... P4
- 2 2026年3月期 第3四半期 事業概況 ..... P12
- 3 Appendix ..... P17



## Appendix 貸借対照表

| (百万円)    | 2024年3月期<br>期末 | 2025年3月期<br>期末 | 2026年3月期<br>第3四半期末 | 前期末差  | 主な増減内容                |
|----------|----------------|----------------|--------------------|-------|-----------------------|
| 流動資産     | 4,429          | 3,981          | 4,497              | 515   | ・ 売上債権等372、未収入金110    |
| 固定資産     | 3,555          | 3,218          | 3,366              | 148   | ・ 投資有価証券278、繰延税金資産△81 |
| 資産合計     | 7,984          | 7,200          | 7,863              | 663   |                       |
| 流動負債     | 3,072          | 2,334          | 2,648              | 313   | ・ 仕入債務等345            |
| 固定負債     | 773            | 723            | 813                | 90    |                       |
| 負債合計     | 3,845          | 3,057          | 3,461              | 404   |                       |
| 株主資本     | 3,699          | 3,896          | 3,974              | 78    |                       |
| 評価・換算差額等 | 439            | 246            | 427                | 180   | ・ その他有価証券評価差額金180     |
| 純資産      | 4,138          | 4,142          | 4,402              | 259   |                       |
| 負債純資産合計  | 7,984          | 7,200          | 7,863              | 663   |                       |
| 自己資本比率   | 51.8%          | 57.5%          | 56.0%              | △1.5% |                       |

# 小売流通の今日を見つめ、 明日をデザインする。

株式会社平賀は、全社一丸となって持続可能な  
よりよい社会に向けて、多様な課題解決に積極的に取り組んでいきます。  
そのために常に新たな目標に向かって、従業員一人ひとりの働きがいを大切にしながら、  
全てのステークホルダーと共に、未来に向かって挑戦しつづけます。

当資料は、株主・投資家をはじめとした様々なステークホルダーの皆さまに  
株式会社平賀への理解を深めていただくことを目的として、経営や財務に関する情報を提供するものです。  
当資料は当社が信頼できると判断した情報源や最新の情報に基づき作成したものです。当資料に記載された事項につきましては、作成時点における当社の予測しうる  
判断に基づくものであり、用語を含め、完全性、正確性を保証するものではありません。実際の業績等は、今後の様々な要因によって大きく異なる可能性があります。  
〈お問合せ先〉株式会社平賀 経営企画部 e-mail : [contact@pp-hiraga.co.jp](mailto:contact@pp-hiraga.co.jp)